

令和7年度以降の夏季休業日の延長について

現行の夏季休業日	変更後の夏季休業日
7月21日～8月24日	7月21日～ <u>8月31日</u>

(大分市立学校管理規則による)

(延長の目的)

◆児童生徒の健康確保の観点から

- 「学校教育活動等における熱中症事故の防止について (令和6年4月30日付け文部科学省通知)」 から抜粋
児童生徒等の健康確保に十分配慮した上で、必要に応じて、夏季における休業日延長又は臨時休業日の設定、それに伴う冬季、学年末及び学年始休業日の短縮等をはじめとした対応について検討すること。
- 「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き (令和3年5月環境省・文部科学省)」 から抜粋
近年、学校における熱中症事故は毎年5,000件程度発生している。
- 大分市において、今年7月～8月に最高気温35度以上の猛暑日を32日記録。

・大分市の気温に関する統計情報

	最高気温平均 (8月)	最低気温平均 (8月)	猛暑日 (8月)	熱中症警戒アラート 発表回数(年間)
2014年	30.1℃	23.9℃	0日	—
2021年	31.0℃	24.3℃	1日	20回
2024年	34.4℃	26.4℃	15日	50回

※熱中症警戒アラートの運用は2021年度から開始。

◆児童生徒の負担軽減の観点から

<授業時数の見直し>

- 2学期の授業日数 R6年度：83日 → R7年度：78日(約20時間軽減)

・市立小学校および義務教育学校前期課程

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準時数	850	910	980	1015	1015	1015
R6平均余剰時数	+91.1	+79.4	+62.9	+54.6	+46.0	+39.7

・市立中学校および義務教育学校後期課程

	1年	2年	3年
標準時数	1015	1015	1015
R6平均余剰時数	+48.5	+49.7	+23.7

<不登校の未然防止等>

- ゆとりのある夏休み
児童生徒が学校生活だけでなく、家庭や地域とのふれあいの時間が確保できるように配慮。
- スロースタート期間の設定
 - ・長期休業明けの授業時数の調整等により、児童生徒がゆとりをもって学校生活に臨むことができ、不登校児童生徒数の削減につながっている。
 - ・1学期始めおよび2学期始めにスロースタート週間を設けた場合でも授業時数を確保できる。

【参考】本市における不登校児童生徒および不登校対策の状況について

1. 全国・大分県の状況

文部科学省が令和6年10月31日に発表した「令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果によると、全国の小中学校における不登校児童生徒数は34万6,482人で、前年度から4万7,434人(15.9%)増加し、過去最多となった。また、大分県の小中学校における不登校児童生徒数は、3,158人(過去最多)で、前年度から455人(16.8%)増加している。

2. 本市の状況

大分市立小中学校および義務教育学校における令和5年度の不登校児童生徒数は、1,665人(前年度1,409人)と前年度から256人増加し、小学生は43人に1人、中学生は12人に1人が不登校の状態となっている。

3. 1・2学期の主な取組

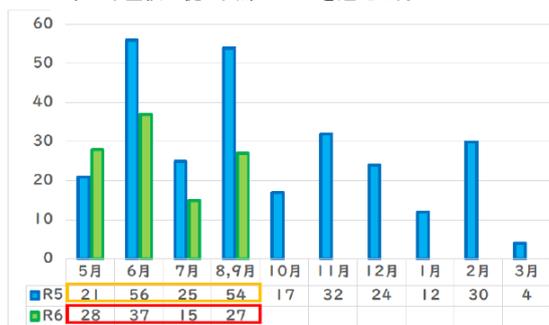
- 授業時数の変更や行事の見直し等の「スロースタートプログラム」の実施による負担軽減
- 中学1年生の部活動の入部時期や練習時間の配慮による負担軽減 ※中学校のみ
- 校内教育支援ルームの整備等、別室による支援
- 一人1台端末等のICTを活用した学習支援 等

4. 不登校児童生徒の状況(毎月の長欠児童生徒調から) ※義務教育学校は小・中学校にそれぞれ計上

不登校児童生徒数の昨年度同時期との比較

	7月末		9月末	
	小学校	中学校	小学校	中学校
R5	228	602	322	742
R6	284	551	346	664
R5比	56	-51	24	-78
小中比計	+5		-54	

中1不登校生徒の欠席30日を超えた月について



- 不登校児童生徒数は、前年度の同時期に比べ、小学校で24人増加したが、中学校で78人減少しており、全体で54人減少した。
- 中学校で減少した78人のうち、1年生が49人(62.8%)を占めている。
- 課題の一つとして、特に中学1年生が入学後の1学期や2学期始めに不登校となる割合が高くなっていたが、「スロースタートプログラム」等の取組により、成果が見え始めている。

5. 「不登校児童生徒の状況・支援に関する調査」の結果(令和6年4月から9月末までの状況)

実施対象：小学校54校、中学校26校、義務教育学校1校 計81校 ※分校除く

<取組の成果について(複数回答可) 一部抜粋>

- ・ 不登校児童生徒の中には、コミュニケーションの積極性や学習意欲の高まりが見られはじめています。小30・中19
- ・ 昨年度の同時期よりも不登校児童生徒が減少した。小16・中16
- ・ 昨年度不登校の児童生徒が登校できるようになった。(別室登校を含む)小36・中25
- ・ 昨年度又は今年度始めに別室を利用していただいていた児童生徒が、教室に入れるようになった。小20・中22
- ・ 新規の不登校児童生徒がいない。小16・中3

6. 今後の取組

- スクールライフサポーターによる、校内教育支援ルームにおける支援の拡充
- ICT(一人1台端末等)を活用した学習支援の充実
- 授業時数や行事の更なる見直し(夏季休業期間の延長 等)

不登校対策「OITA COCOLO PLAN」を一層推進していく